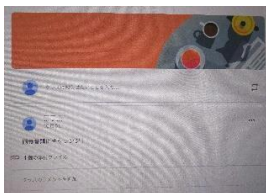
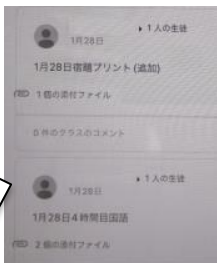


1人1台端末の活用による実践事例

学校名	岡山支援学校	実践者名	榎原 敦
実践場面 (教科)	端末を持ち帰っての学習		
単元・題材名	授業（課題）をしよう		
学習目標・ねらい	・ 学級閉鎖時等の学習を保障する。 ・ 持ち帰りや端末を使用して課題に取り組むことに対する抵抗感を軽減し、ICTの活用を進める。		
対象の児童生徒の実態	全校児童生徒（通学生）		
活用の概要（使用アプリ名を含む） ※写真も掲載する			
必要に応じて1人1台端末を活用している。			
【臨時休業中】			
・ リモート授業 決めた時間割に沿って、教師と児童生徒が同じGoogleClassroom経由で「Meet」を開き、画面越しに授業をする。（①②）			
・ オンデマンド授業 あらかじめ撮影した動画をGoogleClassroomやYouTube（限定公開）に投稿し、可能な時間に授業として視聴する。（③）			
①  ②  ③ 			
【長期休業中】 (未実施)「〇休みの思い出」「これぞ〇（季節）」等の課題に取り組めるよう準備中。			
【平常時】			
・ 平常時の持ち帰り 学期に1回程度、全校児童生徒（通学生）を対象に、連休等を利用して端末を持ち帰り、それぞれの課題に挑戦する。			
このプリントを しましょう。  一緒に 踊ろう！ 			
活用のポイント・改善策等			
すぐに持ち帰りができるよう、校内外のルールの整備等の準備を進めておく。児童生徒の実態によって、家庭で使用する際に大人の助けが必要な場合が多い。その中には端末操作に抵抗感がある方もいる。少しずつでも端末を持ち帰る機会を増やし、操作に慣れてもらうことも今後の課題である。 また、学習の記録として本人の授業風景を撮影しておくことで、日頃授業を見ることが困難な保護者が視聴可能となる。ICTに触れるきっかけを増やす手立てとしたい。			